

芦屋室内合奏団

Ashiya Chamber Orchestra

第47回定期演奏会

The 47th Annual Concert



みつなかホール

Mitsunaka Hall

平成 25 年 11 月 10 日 (日)

Sunday, November 10, 2013

開場 午後 1 時 30 分

Doors Open at 1:30 p.m.

開演 午後 2 時

Starts at 2 p.m.



ごあいさつ



芦屋室内合奏団は1965年に芦屋市浜町の橋本邸で発足し2015年に創立50周年を迎えます。50年という年月の間に団員の入れ替わりも多くありましたが、アマチュアでも質の高い音楽を演奏するという発足当時の熱い思いが、当団の活動の原動力として途絶えることなく受け継がれています。この伝統も、演奏会にいらして下さるお客様、ご指導して下さる指揮者・トレーナーの諸先生、活動を陰で支えて下さるホール・練習施設・演奏会スタッフの皆様、団員をサポートしてくれる家族、多くの方々のご協力とご支援あつての賜物と心より感謝しております。

本日はソロを含む合奏協奏曲、弦楽5部の現代曲、弦楽9部のバッハ、弦楽8部のメンデルスゾーンと異なった編成の作品に取り組みます。これからも様々な作品にチャレンジして上質な音楽を目指して活動してまいりますので、引き続き皆さまの温かいご支援・アドバイスの程よろしくお願い申し上げます。

2013年11月 芦屋室内合奏団 団長 鈴木 雄二
団員一同

Program

G.F.ヘンデル 合奏協奏曲 ト長調 作品6-1
G.F.Handel Concerto Grosso op.6-1
I. A tempo giusto II. Allegro III. Adagio IV. Allegro V. Allegro

第1 ヴァイオリン独奏 鳥丸 安雄 1st Vn solo : Yasuo Torimaru
第2 ヴァイオリン独奏 吉岡 道子 2nd Vn solo : Michiko Yoshioka
チェロ独奏 鳥丸 直子 Vc solo : Naoko Torimaru

D.L.アパート 弦楽四重奏のためのヴィネット (弦楽合奏版)
D.L.Appert Vignette for String Orchestra
Allegro moderato ~ Moderato ~ L'istesso tempo

J.S.バッハ ブランデンブルク協奏曲 第3番 ト長調 BWV 1048
J.S.Bach Brandenburg Concerto No.3 BWV1048
I. Allegro II. Adagio III. Allegro

~~~~ 休 憩 ~~~~

F.メンデルスゾーン 弦楽八重奏曲 変ホ長調 作品20 (弦楽合奏版)  
F. Mendelssohn Octet for Strings op.20  
*I. Allegro moderato ma con fuoco II. Andante III. Allegro leggerissimo IV. Presto*

指揮 酒井 睦雄 (相愛大学教授) Conductor : Mutsuo Sakai

演奏 芦屋室内合奏団 Ashiya Chamber Orchestra



■G.F.ヘンデル 合奏協奏曲 ト長調 作品6-1

ジョージ・フレデリック・ヘンデル（1685-1759）は作品3と作品6の二つの合奏協奏曲集を残している。合奏協奏曲とはコンチェルティーノと呼ばれる独奏楽器群とリピーエノと呼ばれる合奏群からなるバロック時代の協奏曲の最も重要な形式のひとつである。作品6は1739年に作曲された12曲の合奏協奏曲集であるが、本日演奏するのはその第1曲目にあたり5つの楽章から構成され組曲風にまとめられている。

第1楽章 堂々として力強いがおおらかな気分も併せ持った序曲。

第2楽章 明るく楽しい引き締まった感じのアレグロ。

第3楽章 ヴァイオリンとチェロのソロが美しいアダージョ。

第4楽章 毅然としたヴァイオリンのソロで始まり緊張感のあるフーガ。

第5楽章 陽気で気品のある舞曲で爽やかに締めくくる。

(R.A)

■D.L.アパルト 弦楽四重奏のためのヴィネット

この作品は作曲家自身の娘の結婚式のために作曲されたものである。3つの挿絵（ヴィネット）のようなセクションからなり、最初のセクションは娘レベッカの活動的な個性とその様子をあらわしている。中間部はゆっくりとなりロマンチックな娘婿の性格を反映している。最後のセクションは民族的なケルト音楽（古代アイルランド）の雰囲気となる。結婚式で演奏されることを念頭に置いていたのであまり長くないように考慮されている。

（作曲者のD.L.アパルト博士より本日の演奏会のためにメッセージが届いていますので次ページに掲載しています。そちらもご参照ください。）  
(D.L.Appert 訳：Y.S.)

■J.S.バッハ ブランデンブルク協奏曲 第3番 ト長調 BWV 1048

ヨハン・セバスチャン・バッハ（1685-1750）は1717～1723年の間、ケーテンのレオポルド公の宮廷楽長をしていたが、その頃大の音楽ファンであったブランデンブルクのルートヴィヒ公の依頼により、その宮廷楽団のために6曲の協奏曲を献呈した。いずれもイタリアの合奏曲風で、合奏の中から独奏的にある楽器が浮かび上がったり合奏同士が協奏するという形式である。第3番はヴァイオリン、ヴィオラ、低弦がそれぞれ3部に分かれて演奏する。

第1楽章 きびきびとした主題で始まり、中間部では暗い表情が現れるが突然暗雲が吹き払われるように力強く主題が戻ってくる。

第2楽章 経過的に即興的なカデンツァが演奏される。

第3楽章 ヴァイオリン3部のカノンに始まり、他の楽器に次々に引き継がれてゆく。対位法の極致とも言うべき巧妙さで精緻絢爛に展開されてゆく。円熟期のバッハの面目躍如たる作品である。

(Y.S)

■F.メンデルスゾーン 弦楽八重奏曲 変ホ長調 作品20

フェリックス・メンデルスゾーン・バルトルディ（1809-1847）は有名な哲学者モーゼス・メンデルスゾーンを祖父に持ち、裕福なユダヤ系の銀行家の子としてハンブルクに生まれ、その生涯を通して幸福な一生を送った数少ない大作曲家といわれている。この八重奏曲は、二組の弦楽四重奏という編成が採られているが、現在では弦楽合奏用の作品として演奏される機会も多く、1947年にトスカニーニがNBC交響楽団を率いて演奏した際には、チェロパートの部分にコントラバスを重ねた版が演奏され、本日の演奏も同様の構成を採用している。曲は、作曲者が未だ16歳の1825年に完成されたものであるが、もはや習作の域を超えた古典的な完成度の高さによって有名である。

第1楽章 第1ヴァイオリンの奏する叙情的でありながら青春の激しい情熱を秘めた第1主題で始まり、しなやかに流れる変ロ長調の第2主題や又スタカートとスラーを意識的に際立させて対比して、青春のわくわくする感情を効果的に表わす印象的な動機をちりばめたソナタ形式。

第2楽章 悲しみを心に抱いた瞑想的な美しさを持つ第1主題と、やや明るい変ホ長調の第2主題による自由なソナタ形式。

第3楽章 単独にも演奏される有名な楽章で、妖精の踊りのような軽快でささやくようなファンタジックなスケルツォ。

第4楽章 第2チェロの奏し出す主題で始まる自由なフーガ形式。応答主題が第1ヴァイオリンで出てスケルツォ主題も用いられ、壮麗な結尾に向かって高潮して行く。

(R.A)

## アパート博士からのメッセージ

### Message from Dr. Appert

It is a great pleasure to have the fine musicians of the Ashiya Chamber Orchestra perform my Vignette for String Orchestra on their annual concert! They have the distinction of being the only orchestra in the world to have performed all of my music for string orchestra as well as having been the orchestra for whom I composed both my *Elegy* and *Nara Variations*. *Vignette* was originally composed as a string quartet for my daughter Rebecca's wedding and premiered by the Horizon Strings at the ceremony on August 26, 2011. It was so well received that I decided to make a version for string orchestra which my Oregon Sinfonietta premiered in November of 2012 in Portland, Oregon. My good friends, Yasuo (Jack) and Naoko Torimaru, have played chamber music with Rebecca as well as played together in my orchestras in the USA so it is especially fitting that they be performing it today with the Ashiya Chamber Orchestra. The work is divided into three sections, each a vignette or a kind of musical portrait. The opening reflects my daughter Rebecca's busy and active personality and the middle section reflects the more laid back as well as romantic attitude of my son-in-law Will. The cello presents the melody and then it moves to the violins. I have since used this particular tune in several of my works for Italian colleagues that I wrote compositions for (Rocco Parisi, Bass Clarinet and Maurizio Barboro, Piano). The final section has a Celtic kind of flavor as it represents the music that they make together in their Celtic Band "Foxtree". Given that I composed this for a wedding, it is not a very long work and I felt that the ideas could be developed more. Consequently, I used the material as the basis for my Piano Concerto in Mi which was premiered in Italy with a fine string orchestra and Maurizio Barboro (myself conducting) in May of 2012. A midi version of the work can be heard on my website at [www.maestroappert.com](http://www.maestroappert.com) - enjoy!

#### (要訳)

芦屋室内合奏団のみなさんが、毎年恒例のコンサートで私の「弦楽四重奏のためのヴィネット (弦楽合奏版)」を演奏して下さることは私にとって大きな喜びです！ 芦屋室内合奏団は、私がこの合奏団に献呈した「エレジー」「奈良バリエーション」を含めて、私の作曲したすべての弦楽合奏のための作品を演奏している世界で唯一の合奏団です。本日演奏される「ヴィネット」は、もともと私の娘レベッカの結婚式のために弦楽四重奏曲として作曲して、2011年8月26日に結婚披露宴でホライゾン弦楽四重奏団によって初演されました。この作品が好評で迎えられたこともあり私は弦楽合奏用の版も作り、2012年11月にオレゴン州ポートランドで、オレゴンシンフォニエッタにより初演されました。私の良き友人である鳥丸安雄・直子夫妻は、アメリカ滞在時にはレベッカと室内楽を楽しんだりオレゴンシンフォニエッタと一緒に演奏しているので、本日芦屋室内合奏団の定期演奏会で「ヴィネット」が演奏されることは、特にうれしく思います。本日は素晴らしい演奏会になることを祈っています。

(訳：Y.S.)



### プロフィール



#### ■酒井 睦雄 指揮、音楽監督

桐朋学園高等学校音楽科を経て1971年桐朋学園大学卒業。指揮を斎藤秀雄、秋山和慶両氏に、クラリネットを北爪利世、二宮和子、F. フックス各氏に師事。1971年より相愛オーケストラ指揮者、1977年ザルツブルクにてO. スイトナー氏に師事。同年、東京にてS. チェリビダッケ氏のゼミナールに参加。2001年には芦屋室内合奏団を率いてドイツのバンベルクにてバンベルク交響楽団員とともにニューイヤーコンサート、ドレスデンにてフラウエン教会落成記念コンサート等を行い好評を博す。2005年第19回京都芸術祭音楽部門京都府知事賞受賞。現在、相愛大学教授として音楽専門家の育成にあたる傍ら、1974年より芦屋室内合奏団音楽監督、高知大学管弦楽団常任指揮者、京都薬科大学管弦楽団常任指揮者をつとめる等、アマチュア合奏団の発展にも尽力している。

#### ■芦屋室内合奏団

##### Members

|         |                    |        |       |                    |        |                               |
|---------|--------------------|--------|-------|--------------------|--------|-------------------------------|
| ヴァイオリン： | 青柳 良               | 浅野 忠   | 勝部 操  | 喜多 智佐子             | 田島 光子  | 鳥丸 安雄 <sup>○</sup>            |
|         | 橋本 栄子              | 藤本 恭子  | 堀田 純子 | 三村 誠子              | 山上 万起子 | 吉岡 道子 <sup>○</sup>            |
| ヴィオラ：   | 伊藤 恵子              | 音村 圭一郎 | 鈴木 道子 | 鈴木 雄二 <sup>○</sup> | 伊藤 耕平* |                               |
| チェロ：    | 鳥丸 直子 <sup>○</sup> | 堀田 一之  | 宮崎 晴夫 |                    |        |                               |
| コントラバス： | 末松 秀樹              |        |       |                    |        | ( <sup>○</sup> ：パートリーダー *：団友) |
| チェンバロ：  | 小津 久子              |        |       |                    |        |                               |

##### Officials

|           |               |                  |         |
|-----------|---------------|------------------|---------|
| 音楽監督      | ： 酒井 睦雄       | 団長               | ： 鈴木 雄二 |
| コンサートマスター | ： 鳥丸 安雄       | アシスタントコンサートミストレス | ： 三村 誠子 |
| 事務局       | ： 伊藤 恵子 末松 秀樹 | 会計               | ： 堀田 純子 |

本年度は、スイスと日本を拠点に演奏・指導・プロデュースをされているヴァイオリニストの河村典子先生に室内楽指導をしていただきました。この場を借りて御礼申し上げます。